

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

(評価者：海域ワーキンググループ)

モニタリング項目	No. ⑧ オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング		
モニタリング実施主体	オジロワシモニタリング調査グループ		
対応する評価項目	II. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。		
モニタリング手法	オジロワシ生息地において、つがいの生息状況、繁殖活動の有無、繁殖の成否、孵化・巣立ち幼鳥数等を調査。		
評価指標	つがい数、繁殖成功率、生産力（つがい当たり巣立ち幼鳥数）		
評価基準	おおよそ登録時のつがい数、繁殖成功率、生産力が維持されていること。		
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	オジロワシの繁殖数と成績は平年並み。長期的傾向は認められない。海ワシ類飛来数も平年並み。		
今後の方針	希少種であり継続の必要がある。知床繁殖個体群の役割を明らかにすることが望ましい。		

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

○モニタリングの概要

調査・モニタリング名	オジロワシ繁殖モニタリング調査
主 な 内 容	オジロワシの繁殖状況に関する調査
対 象 地 域	斜里町、羅臼町、標津町北部
頻 度	通年
調 査 主 体	オジロワシモニタリング調査グループ（知床財団、知床博物館、羅臼町、他）
調 査 結 果 概 要	知床半島で繁殖する番数は2010年まで漸増していたが、2011年以降横ばい傾向にある。2013年調査で大きく低下した繁殖成功率・生産力は、2011年までの水準に回復した。このことから、2013年の繁殖成績悪化は抱卵期の荒天による一時的なものと考えられた。

表1 2018年オジロワシ繁殖モニタリング調査結果

調査年	推定生息 つがい数	成功失敗確 認つがい数	繁殖成功 つがい数	繁殖失敗 つがい数	繁殖成功率 (%)	巣立幼鳥数	生産力	成功つがい 生産力
2018年								
斜里側	16	5	4	1	80.0	6	1.20	1.50
羅臼側	19	5	4	1	80.0	7	1.40	1.75
計	35	10	8	2	80.0	13	1.30	1.63

表2 2017年までのモニタリング調査結果

調査年	推定生息 つがい数	成功失敗確 認つがい数	繁殖成功 つがい数	繁殖失敗 つがい数	繁殖成功率 (%)	巣立幼鳥数	生産力	成功つがい 生産力
2017年								
斜里側	16	10	6	4	60.0	7	0.70	1.17
羅臼側	18	6	5	1	83.3	6	1.00	1.20
計	34	16	11	5	68.8	13	0.81	1.18
2016年								
斜里側	16	5	4	1	80.0	5	1.00	1.25
羅臼側	18	5	4	1	80.0	5	1.00	1.25
計	34	10	8	2	80.0	10	1.00	1.25
2015年								
斜里側	15	8	4	4	50.0	6	0.75	1.50
羅臼側	18	6	4	2	66.7	4	0.67	1.00
計	33	14	8	6	57.1	10	0.71	1.25
2014年								
斜里側	15	9	5	4	55.6	6	0.67	1.20
羅臼側	17	6	5	1	83.3	5	0.83	1.00
計	32	15	10	5	66.7	11	0.73	1.10
2013年								
斜里側	14	7	2	5	28.6	2	0.29	1.00
羅臼側	17	5	2	3	40.0	2	0.40	1.00
計	31	12	4	8	33.3	4	0.33	1.00
2012年								
斜里側	13	7	5	2	71.4	5	0.71	1.00
羅臼側	19	6	3	3	50.0	4	0.67	1.33
計	32	13	8	5	61.5	9	0.69	1.13
2011年								
斜里側	12	7	5	2	71.4	7	1.00	1.40
羅臼側	19	10	7	3	70.0	7	0.70	1.00
計	31	17	12	5	70.6	14	0.82	1.17
2010年								
斜里側	11	5	3	2	60.0	3	0.60	1.00
羅臼側	17	6	5	1	83.3	7	1.17	1.40
計	28	11	8	3	72.7	10	0.91	1.25
2009年								
斜里側	11	7	5	2	71.4	6	0.86	1.20
羅臼側	16	10	7	3	70.0	9	0.90	1.29
計	27	17	12	5	70.6	15	0.88	1.25
2008年								
斜里側	11	7	4	3	57.1	5	0.71	1.25
羅臼側	15	6	6	0	100.0	6	1.00	1.00
計	26	13	10	3	76.9	11	0.85	1.10
2007年								
斜里側	11	7	5	2	71.4	6	0.86	1.20
羅臼側	14	5	4	1	80.0	4	0.80	1.00
計	25	12	9	3	75.0	10	0.83	1.11
2006年								
斜里側	11	5	5	0	100.0	6	1.20	1.20
羅臼側	12	3	2	1	66.7	3	1.00	1.50
計	23	8	7	1	87.5	9	1.13	1.29
2005年								
斜里側	11	7	4	3	57.1	4	0.57	1.00
羅臼側	12	5	2	3	40.0	2	0.40	1.00
計	23	12	6	6	50.0	6	0.50	1.00
2004年								
斜里側	10	5	3	2	60.0	4	0.80	1.33
羅臼側	11	6	3	3	50.0	4	0.67	1.33
計	21	11	6	5	54.5	8	0.73	1.33

表出典：オジロワシモニタリング調査グループ

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

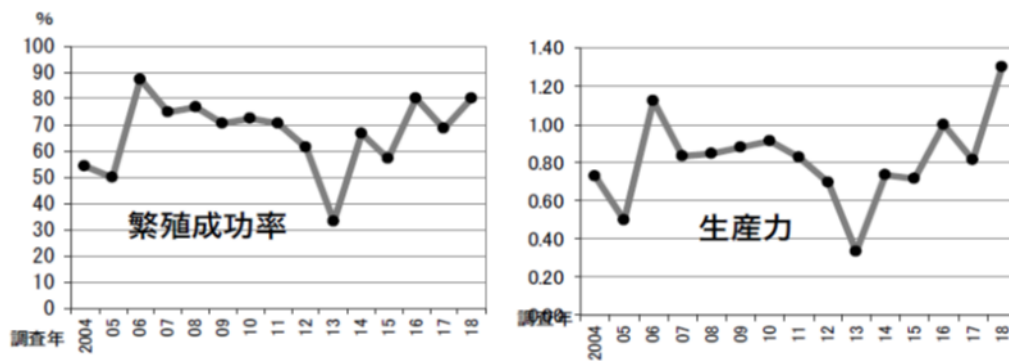


図1 繁殖成功率及び生産力の推移

図出典：オジロワシモニタリング調査グループ